中大スポーツ
CHUDAI SPORTS
インターネットはhttp://chu-daisports.web.infoseek.co.jp
7月15日　木曜日
令和3年(2021)
中央大学体育連盟機関紙
発行人　三浦　裕太
編集人　山田　裕太
八王子市東中野742－1
電話 042(674)2802
五輪号外
SPORT

〈2面〉競泳3面〈フェンシング4面〉バレーボール・ハンドボール〈5面〉ボクシング〈6面〉陸上競技

4×200㍍フリーリレー

東京五輪

中スポ 東京五輪特集号

池本

「選ばれるとは思っていなかった」18歳夢への挑戦!!

池本　凪沙（いけもと　なぎさ）

平成14年8月25日生まれ。出身地は京都。出身高校は近大附高。種目は自由形で、主に200㍍自由形に出場。五輪では4×200㍍フリーリレーに出場する。所属はイトマンSS

女子4×200㍍フリーリレーで期待の「超新星」池本凪沙（法1）が代表内定を決めた。東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権では200㍍自由形で4位。派遣標準記録は超せなかったものの、リレー代表に滑り込んだ！　自身の水泳競技最大の目標である五輪。水泳界の未来を担う若きスイマーが初めての大舞台に挑む！

池本の強み「ストローク」

「ストローク」とは水泳における手足のかきを意味する。花形種目である自由形ではひとかきでどれだけ進めるかがポイントになる。171㌢の長身を生かす大きなストロークは池本最大の武器。他選手よりも少ないストローク数で伸びのある泳ぎを展開することができる。

ジャパンオープン2021女子200㍍自由形決勝で笑顔を見せる池本　切り込み写真は上同大会の予選で飛び込む池本㊤　泳ぐ池本㊦㊤　表彰式で笑顔を見せる池本㊦㊦　日本選手権女子200㍍自由形準決勝で手を振る池本㊦　データベースの写真は第18回FINA世界水泳選手権大会でピースをする左から池本、青木智美（あいおいニッセイ同和損害保険）、五十嵐、白井〈写真提供＝長瀬友哉／フォート・キシモト〉

念願かなった!!

2017
・第39回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会　女子50㍍、100㍍自由形（13～14歳区分）優勝

2019
・世界水泳2019（光州）で4×200㍍フリーリレーに出場（チーム最年少）
・第74回国民体育大会にて100㍍自由形で自己ベスト更新（54秒88）

2020
・きららカップ2020にて200㍍自由形で自己ベスト更新（1分57秒77）

2021
・日本選手権　女子200㍍自由形4位で、4×200㍍フリーリレー日本代表に内定

第40回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会女子13－14歳／50㍍自由形表彰式〈写真提供＝長瀬友哉／フォート・キシモト〉

「存在感見せたい」和やかな表情の奥に潜む闘争心と可能性

日の丸を背負う

夢の舞台、東京五輪への美しい飛び込みが決まった。日本水泳界の未来を担う若きスイマーが4×200㍍フリーリレーでの日本代表に内定。「五輪を目標として練習を頑張ってきたので、代表というのは本当にうれしい」。ジュニア五輪や若くして世界を経験してきた池本でも、五輪代表内定の喜びは別格だ。

目標は決勝進出。同じ種目の五十嵐千尋（JS）をはじめ、憧れの選手たちと日の丸を背負う。「日本代表で一緒に戦えるっていうことはとても光栄ですし、その中で存在感を見せられるようにしていきたい」。2019年の世界水泳（光州）では自分の実力がまだ世界に届いていないことを痛感した。しかし彼女のマインドは一切崩れない。強みであるストローク数の少ない大胆な泳ぎを信じ、チームの勝利に尽くすだけだ。

挫折の先の歓喜

悔しくてたまらなかった。不調に苦しんだ昨年12月。「過去で1番タイムが悪い結果になった」。選考会まで残り5カ月を切り、焦りと不安が自身を追い詰める。それでも友達やコーチら周りの支えと励ましが池本の背中を強く押した。「次のタイムを出せばいいんだ」。昨日より今日、今日より明日。日々の練習は地道なように思えても、着実に夢へ近づいていると捉えてきた。

4月6日、迎えた勝負の選考会。派遣標準記録には届かなかった。ダメか…と3カ月後の未来を想像し沈した。しかし全てのレースが終了し、コーチから告げられたのはリレーでの代表内定。「本当に選ばれるとは思ってなかった」。夢はかなう。努力をすれば必ず報われる。人として大切なことを、18歳の大学生が体現してくれた。

世界に実力証明

悲願達成の原点は6歳の頃。「プールがとても大好きだった」。父親と小さい頃から遊んでいた市民プール。12年たった今、舞台を東京五輪に移す。中大OBの大本をはじめ、多くのライバルと競い合うことであの頃から大きく成長してきた。しかし真っすぐに目標を見つめる池本の根底にある、水泳への熱い想いはあの頃から変わっていない。「東京五輪でリレーメンバーとして色々な経験を積んで、パリ五輪では金メダルを目指したい」。伸びしろ無限大のスイマーが目指すのは世界の頂点。そのためにもまずは東京五輪で実力を証明し、「池本凪沙」の名を世界に轟かせてみせる。（辻市雄大）

Center Position

「不要不急」という言葉が浸透して久しい。新型コロナウイルス流行以来、基本的な生活行動以外はおおむね「不要不急」という扱いを受けている。“東京2020”入学生の私は図らずともコロナ世代、不要不急な大学生になった。そんな私が「中大スポーツ」新聞部に所属して、私たちと同じように不要不急扱いをされているスポーツを追いかけ始めた。ときには現地取材もままならず、家でオンライン取材だってした。入部してちょうど1年が経つが、一度も顔を実際に会わせずにいる同期も存在する。そんな厳しい状況下でも大学スポーツを追いかけ続けようと思ったのは、部活動に励む全ての学生の血のにじむような努力や思いは、必要か不必要かの枠には到底収まらないということを伝えたかったためだ。「こんな時に学生スポーツなんて」というありふれた言葉に彼らの思いを押し込めたくはなかった▼これはオリンピックにも当てはまることだと思う。2013年、オリンピックの東京開催が決まり社会は歓喜した。それ以前からアスリートは誰から言われるわけもなく努力を重ねていたし、私達は健やかに暮らしていた。2020年、新型コロナウイルスが流行し、オリンピックなんてこのご時世不必要だという意見が生まれた。時にはその矛先が特定のアスリートに向かうこともあった。それでも選手は足を止めることも、スポーツを諦めることもなかった。私たちも行き場のない思いを抱えながらもそこそこに楽しい生活を送っていた。アスリートもスポーツも、そして私たちすらも何も変わってはいなかった▼初めから何もかもが不要不急だったのだ。オリンピックという言葉だけが先走って、それを目指す全てのスポーツマンが置き去りになっている。全ての人間から必要とされているものはどんなスポーツや音楽、芸術、人間の中にも存在しない。オリンピックがそんな全ての不要不急から再び価値を見出されるきっかけになれば、と思ったりもする▼とにかく、不要不急な私が不要不急なスポーツを追いかけることで、お互いの「要」と「急」になることができれば。少なくとも私だけはそれを必要としていると伝えたい。そんな願いがあるからこそ、私は学生スポーツを追いかけることをやめられない、やめたくはないのだ。（小野澤）

レイアウト　辻市雄大

らーめん
にんにくや
Twitter: @ninnikuya_h
Instagram: ninnikuyaseki
八王子市堀之内3-6-10多摩ニュータウン通り沿い
応援してるぞ！

◆4×200㍍フリーリレーメンバー表◆

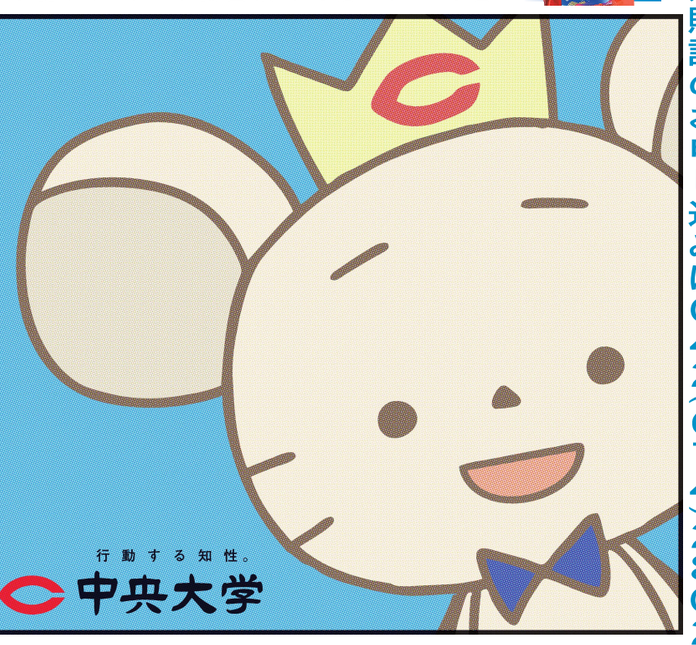
名前	一人平均	200㍍自己ベスト
五十嵐千尋（イトマンSS）	1分57秒47	1分57秒10（17年ジャパンオープン）
白井璃緒（東洋大）	1分58秒37	1分56秒82（19年世界水泳）
増田葵（菅公学生服）	1分58秒86	1分58秒86（21年日本選手権）
池本凪沙	1分59秒18	1分57秒77（20年きららカップ2020）

データベース

◆競泳女子金メダリスト　競泳女子日本代表で金メダルを獲得したのは5人。800㍍自の柴田亜衣（04年アテネ）、200㍍平泳ぎ前畑秀子（36年ベルリン）、岩崎恭子（92年バルセロナ）、金藤理絵（16年リオ）、100㍍バタフライ青木まゆみ（72年ミュンヘン）。池本が出場する4×200㍍FRと主戦場である200㍍自での日本人メダリストはいない。持久力と瞬発力が求められる自由形では苦戦が強いられている。

定期購読のお申し込みは042(674)2802

輝け！自門アスリート!!
行動する知性。
中央大学



◆おことわり◆　今号では東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と（公財）日本オリンピック委員会が規定したマーケティングガイドラインに則り、写真中のオリンピックパートナー以外の企業名・企業ロゴを画像処理をし消去した上で掲載しております